
クリニックの外来診療

クリニックの実施成績

小野良樹

東京都予防医学協会保健会館クリニック所長

はじめに

東京都予防医学協会(以下、本会)が運営する保健会館クリニックは、健康保険法による内科外来と専門外来、高齢者医療確保法による地域住民の健康診査およびがん検診を実施している。

内科外来は、地域住民の診療と職域での定期健康診断後の有所見者に対する診療と事後指導を、希望に応じて実施している。

専門外来は、消化器(肝臓病含む)、循環器、糖尿病、腎臓病、呼吸器、整形外科、乳腺、婦人科、甲状腺、更年期、代謝、禁煙、睡眠時無呼吸の13科と小児相談室で構成される。

専門外来の受診者は、本会の人間ドック、労働安全衛生法による定期健康診断、学校保健法による健康診断、高齢者医療確保法による健康診査などで要精密検査・要受診と判定された人で、当クリニックでの受診を希望された人、または内科外来受診者で専門外来の受診を必要とされた人である。

診療には、クリニック常勤医および外部(東京医科大学、慶應義塾大学医学部、東京慈恵会医科大学、順天堂大学医学部、日本大学医学部、日本医科大学、昭和大学医学部、がん研究会有明病院、東京警察病院、杏雲堂病院)の専門医らが当たっている。

優秀な非常勤医の協力を得て、小世帯の割合には多くの診療業務を実施している。先進的医療が行われる一方、大学医局等の都合で短期間に医師が変わることが悩みの種である。そこで常勤医師を中心に行間の診療が欠如しないよう細心の注意を払っている。近年、

診療部門をさらに強化すべく常勤医師の増員を図った。消化器専門医、肝臓専門医、循環器専門医、乳腺専門医、呼吸器専門医、甲状腺専門医、婦人科専門医、および人間ドック専門医が日々の診療に専心している。

看護科は14人の常勤者および17人の非常勤者が在籍している。内科外来、専門外来、人間ドック、施設内健診、出張健診などの看護業務をそれぞれ交代で担当している。本会の看護師は、がんに関する精検結果の追跡調査を分担して行っており、がん診断の精度管理にも精通している。追跡する項目は、子宮がん、乳がん、肺がん、胃がん、腹部がん、大腸がん、前立腺がんである。各担当の看護師の努力により追跡調査が行われ、がん発見における陽性反応適中度(発見がん数/要精密検査数)は向上している。

看護師はこの他、本会内危機管理委員会の下部組織であるリスクマネジメント部会を担当している。この活動により、業務マニュアルは日々更新され、インシデントは減少し、看護業務の健全化が図られている。

医事課には8人のスタッフが在籍している。クリニック受付窓口は近隣地域のみならず、首都圏広範囲から受診者が訪れ、その内容も複雑多岐を極める。複数の診療科が同時に進行しているため、業務の正確性、効率化を日々追求し努力を重ねている。またレセプト整備(電子請求等)にも力を入れ、その成果は秀逸である。

当クリニックでは保険診療に関する個人情報を取り扱っているため、職員に対して個人情報保護法に

表1 クリニックの月別・科別受診者数

(2011年度)

科	月													合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
内 科	340	291	311	243	319	328	343	333	360	303	345	374	3,890	
消化器 (肝臓病含む)	150	134	189	216	259	164	187	227	203	213	222	180	2,344	
循環器	72	75	77	64	74	72	57	69	60	52	88	68	828	
糖尿病	70	64	72	61	72	45	78	58	76	51	78	63	788	
腎臓病	8	12	9	8	4	9	9	8	5	11	7	7	97	
呼吸器	46	45	51	68	52	54	48	71	74	46	67	52	674	
整形外科	12	11	9	11	12	10	10	8	12	7	8	12	122	
乳腺	80	89	103	100	116	105	122	119	103	104	103	109	1,253	
婦人科	294	207	268	251	286	298	369	332	282	252	329	314	3,482	
甲状腺	346	287	370	375	370	381	312	349	336	305	324	386	4,141	
更年期	24	31	22	20	36	25	34	28	32	20	27	29	328	
代謝	18	8	12	18	13	17	11	13	14	4	14	12	154	
禁煙	3	5	4	2	1	3	5	7	10	8	6	2	56	
睡眠時無呼吸	24	23	27	25	21	24	25	25	28	27	5	3	257	
外来栄養指導	0	1	2	1	1	2	0	1	8	1	2	2	21	
腎臓病	0	0	1	1	7	4	2	0	2	1	3	1	22	
貧血	3	1	2	3	3	5	2	4	1	2	2	2	30	
コレステロール	7	2	5	5	7	6	5	4	5	6	3	4	59	
心臓病	17	13	13	7	20	6	11	7	4	5	5	9	117	
脊柱側彎	15	13	12	22	33	14	6	10	17	9	11	30	192	
合 計	1,529	1,312	1,559	1,501	1,706	1,572	1,636	1,673	1,632	1,427	1,649	1,659	18,855	

基づく教育を日常的に行っている。

診療報告

2011年(平成23年)の年間総受診者は18,855人である。2010年に比較し、45%減少した。この理由は3月11日に発生した東日本大震災の影響と考えられる。一般内科の年間受診者は3,890人、(全受診者の20.6%、前年度比83.7%)であった。

専門外来の受診者は、消化器外来2,344人(全受診者の12.4%、前年度比113.7%)、甲状腺外来4,141人(全受診者の21.9%、前年度比100.4%)、婦人科外来3,482人(全受診者の18.5%、前年度比107.4%)、乳腺外来1,253人(全受診者の6.6%、前年度比80.9%)であった。2011年は内科外来および乳腺外来の減少、消化器外来および婦人科外来の増加が特徴的であった。その他の外来受診者数は表1に示すとおりである。主な専門外来を概説する。

甲状腺外来

担当は本会の百溪尚子内分泌科部長で、甲状腺分

野で世界的に高名な医師であり、この分野におけるわが国のオピニオンリーダーである。この外来の特徴は、甲状腺に関する最新かつ先端的診療を実施していることである。このため、患者は都内はもとより、広く首都圏から来院する。1週間に3日間診療しているが、当然混雑を極める。しかし、患者本位の診療を行い、来院当日に検査結果を知らせる即時診断を原則とし、患者の状態が安定している場合は郵送で結果を報告している。

また、患者本人に自分の病気について理解を深めてもらうためパンフレットなどを準備し、初診で不安を感じている患者には時間をかけて説明を実施している。子どものことを心配する両親には、毎月第3土曜日に家族外来(ファミリー外来とも呼んでいる)を設け、小児科医と甲状腺の専門医が同じ部屋で親子一緒に診察を受けられるよう連携している。

さらに、患者のためにバセドウ病教室を開き、知識を深めてもらうと同時に個人的な質問に答えられるよう、会場には出席者のカルテも準備している。

百溪医師以外に岩間彩香医師、井上ゆか子医師ら、

いずれも女性医師が担当している。このように患者主体の診療を実施しており、クリニック外来部門の主役を担っている。

妊娠中の甲状腺ホルモン異常は、母子へさまざまな悪影響を及ぼす。このため妊娠初期の甲状腺機能検査のスクリーニングは大きな意義がある。現在乾燥ろ紙血を用いてスクリーニングを実施している。〔詳細は妊婦甲状腺検査の実地成績 (P113) を参照〕

乳腺外来

開設当初は、東京都産婦人科医会の会員から紹介される、主に視触診による乳がん検診の精密検査を担う目的で創設された外来であったが、近年、わが国の乳がん検診の手法の変化とともに外来患者層の変化がみられる。最近では、本会の地域・職域におけるマンモグラフィや乳房超音波検査を用いた乳がん検診を受診された人の精密検査がその中心となった。それに加えて、他機関での要精検対象者や地域住民の有症状患者も受け入れている。

外来診療の内容は、問診・視触診の後、マンモグラフィや乳房超音波検査などの画像診断を行い、必要に応じて乳頭分泌物細胞診、穿刺吸引細胞診など質的診断も実施している。

よりよい精密検査実施のために、日本乳癌学会、日本乳癌検診学会が共同で2009年11月に「乳癌検診の精密検査実施機関基準」を作成した。本会の乳腺外来はその実施機関基準を遵守し、受診者が安心して適切な診断が得られるように努力している。

乳がん患者数の増加や社会的要望の高まりにより、外来患者数は飛躍的に増加しており、最近では予約数の増大のため円滑な外来運営が困難になってきた。このため、検診からの経過観察症例のうち、正常例や軽症例は検診に戻すようにして、精密検査が必要な患者が速やかに受診できるように外来予約枠の確保に努めている。

外来受診者でさらなる精密検査や治療が必要な人には迅速に専門病院を紹介し、経過観察が必要な人には安心して適切な間隔で検査を受けてもらうよう

表2 年度別の消化器外来の受診者数と上部内視鏡件数・生検数・がん発見数

年度	消化器外来受診者数	上部内視鏡件数	生検数	(1998～2011年度)	
				胃がん発見数	食道がん発見数
1998	8,399	1,671	1,140	40	
1999	7,459	1,549	1,004	28	
2000	6,936	1,610	941	42	
2001	6,574	1,739	1,111	29	
2002	6,635	1,679	931	23	
2003	4,278	1,531	757	18	
2004	4,113	1,623	737	10	
2005	4,027	1,743	708	21	
2006	3,870	1,695	697	18	
2007	2,277	1,514	561	13	
2008	2,379	1,611	556	26	
2009	2,348	1,684	457	16	2
2010	2,061	1,684	418	10	2
2011	2,344	1,672	374	8	1

に配慮している。紹介病院について、以前は本会の指定病院が多かったが、受診者の利便性や希望に応じて多数の基幹病院と連携し、受診者がよりよい治療を受けられるように配慮している。担当は本会の坂佳奈子が乳がん検診・診断部長である。〔詳細は乳がん検診の項 (P195) を参照〕

消化器外来

胃部レントゲン検査からの異常例について、胃管内視鏡検査を実施している。

表2に示すように胃管内視鏡検査実施数は1,672例、そのうちバイオプシー（生検）数は374例（22.3%）であった。胃がん発見数（食道がんを含む）は9例を数え、早期がん7例、進行がん1例、不明1例であった。精密検査受診者に対する胃がん発見率は0.53%、陽性反応適中度は0.53%であった。

なお、年度別の胃がん発見数は、2000年の42例をピークに漸減している（表2）。この理由としては、逐年胃検診による減少効果が考えられる。

腹部超音波診断から抽出した要精検例については、国立がん研究センターと連携し、精密検査を実施している。2011年は腎細胞がん、膀胱がん各1例を発見した。さらに、I PMN（膵管内乳頭粘液産生腫瘍）についても経過観察中である。FOBT（便潜血反応検査）陽性者は、提携施設で大腸内視鏡検査を実施している。厳重な追跡調査を実施しており、2011年の発見

大腸がんは15例(陽性反応適中度1.29%),うち10例が早期がん,5例が進行がんであった。早期がんのほとんどは職域検診からの受診者である。

一方,筆者は東京都に肝臓専門医の届出を行い,肝臓専門外来を実施している。現在,B型肝炎療法の薬物(エンテカビル)療法,C型肝炎のペグインターフェロン,リバビリンの併用療法を中心に実施している。B型,C型肝炎の公費負担制度の結果,受診者は増加しつつある。最近,非B,非C型の肝細胞がんが散見され,今後の大きな課題である。〔詳細は胃がん検査報告(P149),超音波検査報告(P99),ならびに大腸がん検査報告(P167)を参照〕

婦人科外来

本会の長谷川壽彦検査研究センター長,伊藤良彌婦人検診部長を中心に診療を実施している。東京都産婦人科医会の会員より紹介された受診者,および本会施設で実施した地域住民と職域の1次検診で子宮頸部細胞診のパパニコロウⅢa以上の受診者を対象にコルポスコピー検査,細胞診および組織診を併用して子宮頸がんの早期発見に努めている。2010年からはベセスダ方式を取り入れ,ASC-US(意義不明異型扁平上皮細胞)以上はHPV検査を実施し,陽性者にはコルポ診,精検を行っている〔詳細は子宮がん検診(P171)を参照〕

代謝外来

本会の和田操代謝病研究部長が担当しているユニークな外来である。新生児スクリーニング検査で発見されたアミノ酸代謝異常症(フェニルケトン尿症など)や小児糖尿病検診で発見された2型糖尿病などを対象に,

小児から成人に至るまでの成育医療を実施している。

禁煙外来

2007年4月に禁煙外来を開設した。当初,貼付薬(ニコチネル),その後,経口薬(チャンピックス)を用いて治療しているが,最近の禁煙成功率は約85%と高い傾向にある。近年,喫煙の害に関する知識が浸透したこと,ならびにたばこ料金の値上げも影響して,受診者はやや増加傾向にある。受診者の平均年齢は52.5歳であり,平均治療期間は8.2週である。

おわりに

本会保健会館クリニックの特徴は,地域を対象とした一般診療とは異なり独特な形態を呈していることである。受診者の多くは検診からの要精密検査対象者のうち本会受診希望者で,受診者の居住区は首都圏の多岐におよんでいる。各種精密検査(がん診断)に呼応するためそれぞれ専門医を配置しているので,受付窓口は事務作業が複雑多岐を極めている。

がん診断には当然精度管理が伴う。現在,精度管理のプロセス評価を高めるため,本会内に各種(胃,大腸,乳腺,肺,子宮,前立腺)がん検診の精度管理委員会を立ち上げ,鋭意努力を重ねている。この結果,年度ごとに陽性反応適中度は上昇している。しかしながら,最終診断結果の未把握率が依然として高いことも事実であり,スタッフ一同真剣に追跡調査に取り組んでいる。同委員会での主要な任務は,精密検査の受診勧奨,追跡調査であるが,今後は発見がんを取りこみ,本会内でがん登録を実施する予定である。現在この目標に向けて,医師,看護師および医事課スタッフが共同して取り組んでいる。

東京都予防医学協会の出版物(非売品)

